



れました。そして、一つの屋根の下に何十人何百人という見知らぬもの同士が、窮屈な生活を強いられていました。ただ、生き延びることに精一杯だった人々は、笑う気力さえ残されていませんでした。

そんな中舞天さんは、毎晩のように三線を手に、「ヌチヌグスー ジサビラ（命のお祝いをしましよ う）」といって家々を回ったのです。

見知らぬ男が場違いなことを言っただけで、最初はみんな啞然とするだけでしたが、やがて舞天の滑稽な姿に乗せられ、住民たちも一緒に踊り出しました。

舞天さんがある屋敷を訪問したときのことです。家族を亡くした家主が、涙を流しながら問いかけました。「どうしてこんな悲しいときに歌えるのか？ 多くの人が戦争で家族を失ったの

慰霊の日特集

～復興と笑い～



舞天の直筆サイン（1962年）

に！戦争が終わってからもまだ何日も経っていないのに、位牌の前でどうしてお祝いをしようというのか？」

すると舞天さんは「あなたはまだ不幸な顔をして、泣き明かしているのか。生き残った者が、生き残った命のお祝いをして元氣を取り戻さないと、亡くなった人たちも浮かばれないし、沖縄も復興できないじゃないか。さあ、皆で命のお祝いをしよう。楽しくはしゃごう」と言っただけで、三線を弾きながら歌い踊り始めた。

ました。その言葉が人々の心に光をともし、少しずつ復興への輪が広がっていったのです。

失ったものが大きいほど、立ち直ることは容易ではありません。でも、いつか必ず前を向いて一歩踏み出せる時が来ると信じ、多くの先人たちは、沖縄の復興・発展をとげました。その想いをしっかりと受け継ぎ、新しい世代へとつなげていかなければなりません。

平和資料展

毒ガス

—沖縄にあった見えない兵器—

天願棧橋からサリン、VXの「毒ガス」が運びだされてから40年。写真で当時を振り返る。

場所：石川歴史民俗資料館

入館無料

期日：6月14日(火)

～7月10日(日)

※休館日：月曜日、6/24振替

問合せ：歴史民俗資料館

☎965-3866